NIE実践報告

1．タイトル：新聞を通して社会に視野を広げよう

2．学校名

熊本県立人吉高等学校

3．実践者名（代表者名）

楠田美和

4．学年

第2学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　293人

6．単元（本時の学習課題）名

「ディベートに挑戦しよう」

7．目標（狙い）

ディベートに取り組むことで論理的思考力と相手にわかりやすく伝える表現力を養い、さらに、新聞記事を論拠とすることで社会問題への興味・関心を深める。

8．評価の視点

新聞記事を論拠として客観的な視点に基づく立論が書けたか、また、お互いに意見をかみ合わせた討論を行うことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「『私の進路を語る』を書こう」［進路学習：9時間］、「ディベートに挑戦しよう」［討論：13時間］、「小論文実践トレーニング」［小論文：3時間］　　計25時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

論題：「『こうのとりのゆりかご』を全国の都道府県に設置すべきである、是か非か」
「日本の電力供給をすべて原子力発電でまかなうべきである、是か非か」

①実際のディベートの試合のビデオを見て、ディベートとは何かを理解する。また、それぞれの論題を考える上での視点について解説を受ける。(1時間)
②論題に対するメリット・デメリットを考え、論拠となる新聞記事を探す。(1時間)
③それぞれの論題の肯定・否定の立論(1500字)を書く。(4時間)
④班に分かれ、担任より機械的に割り振られた論題と立場でディベートをする準備をする。(3時間)
⑤ディベートの試合をし、クラス代表班を選出する。(1時間)
⑥ディベートの論題をテーマとした小論文を書く。(1時間)
⑦各クラス代表班による「ディベート・クラスマッチ」を行う。(2時間)
(留意点)・必ず新聞記事を論拠とさせる。そのため、参考になる記事を各自で切り抜いておくよう助言するだけでなく、学年の取り組みとして記事の切り抜きをしておく。また、立論はすべての立場を書かせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・論題に関する記事を探したことで、新聞を内容まで詳しく読むようになった。
・現在起こっている問題について関心を持ち、自分の意見を持てるようになった。
・一つの物事について、肯定・否定の両方の立場から考えることができるようになった。

12．成果と課題

・新聞記事を必ず論拠にするようにしたことで、新聞を漠然と読むのではなく、目的を持って読む習慣づけができ、さらに社会問題への興味・関心も深めることができた。ただし、新聞記事という「生もの」を扱うので、論題はタイムリーなものに設定しないと記事探しに苦労するものと思われる。
・多くの生徒にとってディベートは充実して取り組めたようだ。しかし、基本として班活動になるので取り組みに個人差が出てきてしまい、すべての立場の立論を書かせるなど個別の活動にも力を入れたが、最終的な試合になると人任せになっている生徒がいた点は今後の課題である。